



六本木アートナイト参加企画

[アラカワ+ギンズを巡る過去、現在、未来] 集中講座

Work In Progress

Explorations of ARAKAWA + GINS

2016. 10/21・22・28

常に現在進行形の荒川修作+マドリン・ギンズ、
さまざまな角度からマニアックで濃密なトークを
六本木アートナイトに合わせ連続で開催

Session
1

10/21 (金) 19:00 - 21:00

池上 高志+本間 桃世 Takashi IKEGAMI + Momoyo HOMMA

『意味のメカニズム』を破壊する Stop The Mechanism of Meaning !

Session
2

10/22 (土) 14:00 - 16:00

山田 諭 Satoshi YAMADA

「荒川修作を解読する」 Analyzing the art of Arakawa Shusaku

Session
3

10/22 (土) 17:00 - 19:00

関西大学東西学術研究所身体論研究班 + 本間 桃世

Studies of the Architectural Body / The Institute of Oriental and Occidental Studies
- KANSAI UNIVERSITY + Momoyo HOMMA

「アラカワ+ギンズの現在と未来」

ARAKAWA + GINS study today
-through an interdisciplinary approach

Session
4

10/28 (金) 19:00 - 21:00

難波 英夫 Hideo NAMBA

「意味のメカニズム考」

Appreciation of The Mechanism of Meaning

ギャラリー・アートアンリミテッド

〒107-0062 東京都港区南青山 1-26-4 六本木ダイヤビル3F

Tel: 03-6805-5280 E-mail: info@artunlimited.co.jp

主催: gallery ART UNLIMITED / ARAKAWA+GINS Tokyo Office (Coordinologist, Inc.)

協力: 関西大学東西学術研究所 / Reversible Destiny Foundation

gallery 
ART UNLIMITED

荒川修作+マドリン・ギンズ 集中講座

常に現在進行形の ARAKAWA +GINS、さまざまな角度からマニアックで濃密なトークを六本木アートナイトに合わせ連続で開催します。時間軸とともにアラカワ+ギンズの影響の空間の広がりやを体現させるセッション。芸術家としての荒川修作の作品解説、世界で唯一のアラカワ+ギンズの集合住宅、三鷹天命反転住宅の現在、思想的な広がりを見せる今後の展開として関西大学の研究チームのNY取材レポートなど。ギャラリーの小さな空間で行う完全予約制の密室トーク。あわせて関連展示を行います。

料金：各回 2,000 円(ワンドリンクつき) 定員 30 名 事前予約制

SESSION 1

10/21 金 19:00 - 21:00

『意味のメカニズム』を破壊する

東京大学大学院で複雑系の科学を専門とし、人工生命の研究を通じて、アラカワと親しく交流。次世代への橋渡し役としても大きな影響力ある池上氏。アラカワ+ギンズ東京事務所代表の本間桃世氏を聞き手として池上氏が語るアラカワ+ギンズと人工生命の未来の世界。

講師：池上 高志（東京大学大学院教授）

1961年生まれ。東京大学大学院教授。複雑系科学研究者として、アートとサイエンスの領域を繋ぐ活動も精力的に行う。渋谷慶一郎と「第三項音楽」、新津保建秀と「MTM」、宮島達男との生命体のような動きをするガジェット「LIFE I-model」など、活動は多岐にわたる。著書：『生命のサンドウィッチ理論』（講談社、2012）、『動きが生命をつくる—生命と意識への構成論的アプローチ』（青土社 2007）、共著：『複雑系の進化的シナリオ』（朝倉書店、1998）『ゲーム—駆け引きの世界（東京大学公開講座）』（東京大学出版会、1999）、共訳書：Andy Clark 著『現れる存在』（NTT 出版、2012）など。

聞き手：本間 桃世（荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所代表）

SESSION 3

10/22 土 17:00 - 19:00

アラカワ+ギンズの現在と未来

竣工 1 年目を迎えた三鷹天命反転住宅。アラカワ+ギンズ東京事務所の代表である本間桃世氏が語る三鷹天命反転住宅の今。そして今年、アラカワ+ギンズの研究プロジェクトを立ち上げた関西大学東西学術研究所身体論研究班、三村尚彦、門林岳史、岡村心平各氏による NY 調査報告とプロジェクトの今後について。

講師：関西大学東西学術研究所 身体論研究班 + 本間桃世

本研究班は、現代美術家の荒川修作、マドリン・ギンズが唱えた思想「建築する身体」「天命反転」を、学際的な視点から考察し、「22 世紀へ向けての身体論」を提案することを目的とする。本研究の一番の特徴は、新しい身体論の構想を、荒川+ギンズ研究をフィルターにして目指す点にある。荒川+ギンズが自身を芸術・科学・哲学の総合を目指すコーディネロジスト（coordinologist、荒川による造語）と称したように、荒川+ギンズ研究には学際的な視点が不可欠である。その点をふまえて本研究班では、体験過程理論、東西身体論比較研究、身体教育論とボディーワーク論、絵画・建築作品の表象分析、生態学的アプローチ、リハビリテーション・精神医学臨床研究、荒川+ギンズプロジェクトの継続展開の研究、これに加えて、脳神経科学、システム論、芸術学などの諸分野との交流を図りながら、総合的視点に立つ身体論を提唱していく。

ご予約方法

参加をご希望の方はインターネットからお申込みください。
イベントは全て事前予約制、定員になり次第締切となります。

www.architectural-body.com

荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所 ホームページ

SESSION 2

10/22 土 14:00 - 16:00

荒川修作を解説する

荒川修作の出身地である名古屋の美術館の学芸員として、近隣の学芸員とともに「荒川修作研究会」を立ち上げて、2005 年に「荒川修作を解説する」展を開催した山田氏が、1950 年代の初期作品から建築へと移行する直前 1980 年代の傾斜台のある作品まで解説する。

講師：山田 諭（名古屋市美術館 学芸課長）

1959 年名古屋生まれ。1985 年名古屋大学大学院修了。名古屋市美術館の開館準備に携わり、1988 年から現職。専門は日本近代・現代美術。主要な企画展は、「日本のシュールレアリスム 1925-1945」展（1990 年）、「赤瀬川原平の冒険」展（1995 年）、「河原温 1954,1954,1956 内藤礼 1991」展（1995 年）、「戦後日本のリアリズム 1945-1960」展（1998 年）、「中西夏之：《柔かに、還元》の絵画／思索」展（2002 年）、「荒川修作を解説する」展（2005 年）、「静けさのなかから：桑山忠明／村上友晴」展（2010 年）、「ハイレッド・センター：『直接行動』の軌跡」展（2013 年）、「画家たちと戦争：彼らはいかにして生きぬいたのか」展（2015 年）など。

SESSION 4

10/28 金 19:00 - 21:00

意味のメカニズム考

アラカワ+ギンズの代表作、「意味のメカニズム」全点を所蔵するセゾン現代美術館の館長である難波英夫氏。かつてアラカワ+ギンズと最も親しく交流した識者が、多くの謎に満ちた「意味のメカニズム」論とともに、生身のアラカワのエピソードを語る。

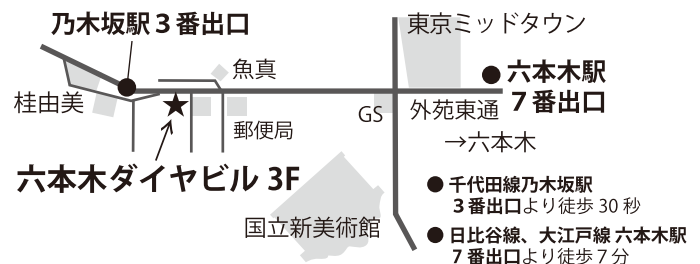
講師：難波 英夫（セゾン現代美術館 館長）

1950 年、東京都に生まれる。東京芸術大学美術学部美術学科卒業。現在、セゾン現代美術館館長。専攻、欧米近現代美術。『横尾忠則全絵画』（監修・解説、平凡社、1996）、訳書に、ベッツィー・ワイエス『クリスティーナの世界』（リプロポート、1983）などがある。『荒川修作論（仮題）』を刊行すべく執筆中。

会場・お問合せ

ギャラリー・アートアンリミテッド

〒107-0062 東京都港区南青山 1-26-4 六本木ダイヤビル 3F
Tel: 03-6805-5280 E-mail: info@artunlimited.co.jp



関連展示「アラカワ+ギンズを巡る過去、現在、未来」

10 月 21 日（金）- 11 月 19 日（土） 営業時間：13:00-19:00 休廊：日・祝・火曜休み ※11 月 3 日（土）- 7 日（月）は工事のため連休
*セッション開催中は、参加者のみご入場いただけます

gallery 
ART UNLIMITED